平成１３年９月１日発行

かまにし

発　行　わがまち大田蒲田西地区推進委員会
編　集　地域情報紙編集委員会

創刊号

かまにし17 創刊にあたり

わがまち大田蒲田西地区推進委員会
蒲田西地区自治会連合会
会　長　鈴木廉士

蒲田西地区の皆様には、益々ご清勝のこととお喜び申し上げます。日頃、皆様には、様々な分野で地域活動に昼夜を問わずご尽瘁(じんすい)を賜り、ご指導を戴いておりますこと誠に有難く心より深く感謝と御礼を申し上げます。

さて、この度、皆様からのご要望により蒲田西地区から地域情報紙を発刊する運びとなりました。

皆様ご案内の通り蒲田西地区自治会連合会は、現在17の自治会町会で構成されておりますところから、『かまにし17』と称して、地域情報紙を年に何回か発刊し、各ご家庭に配布いたします。

既に各自治会町会から一～二名の編集委員の方々が選出され、早速、創刊に向けての編集委員会が何回となく開かれ協議を重ねてまいりました。

何分にも初めての地域情報紙の発刊ですので、編集に当たりましては何としても皆様方の温かいご理解とご協力が頼りでございます。皆様方の幅広い視野からのご指導により、編集の収録発信を尚一層スムーズに推進することが出来るのではないかと存じます。重ねて、皆様に限りないご支援とご指導をお願い申し上げます。

蒲田西地区は大田区で世帯数・人口ともに上位で、古くからの神社佛閣等、古来から知られていない文化や伝統など数多くありましょう。

町会など様々な活動を通じ、各分野からの様子など特色を活かしながら、情報紙に掲載し快心で通じ合える伝聞が発信されたならば、地域住民相互のふれ合いが一段と増すでしょう。そして親睦融和の交流が深まり、蒲田西地区の明るくて輝きのある街の発展にも寄与することとなるでしょう。

地域情報紙の良きあるべき姿に期待をかけ、皆様と共に通じ会える蒲田西地区であります様、今後ともご協力・ご指導賜り、皆様のご健勝をご祈念申し上げまして、創刊号発刊のご挨拶とさせていただきます。

蒲田駅西口駅前ロータリー

輝け蒲田西

かまにし17 創刊記念 小松助役との座談会

座談会出席者

助役　小松 恵一
編集委員長　都築 保二
副編集委員長　柏村 茂
〃　柳通 勝麿
〃　川名 重士
〃　山崎 修弘
特別出張所長　鴨志田 隆
事務局　秋成 靖
（敬称略）

都築「蒲田西の売り物は何か？」

小松「大田区の課題に、東急蒲田 ― 京急蒲田 ― 羽田空港を、どのように結んでいくかということがある。通過駅周辺では空港までのアクセス整備に伴い、企業が多数戻ってくる。蒲田駅は単なる通過駅ということに留まらず、市場の価値が上がっていく。大田区民が空港へのアクセスに、浜松町を経由しているというのはなんとかしないといけない。」

都築「これからは、堂々と『大田区は蒲田だ』という区役所の姿勢が欲しいなあ。」

小松「歴史的に大森と蒲田は両巨頭と言える。蒲田には蒲田の、大森には大森の良さがある。大田区には幸いにも二つの都市があるようなものかな。こういう都市は珍しい。」

柳通「なぜ蒲田なのか。それは、関東近県どこに行くにも便利だから。朝晩の始発最終の交通（電車・飛行機）の便が良いのも特徴だ。大田区の玄関としてのアピールがもっと必要だなあ。」

都築保二編集委員長
（平成１０年から安方南町会長）

小松「大田区には、海、川、山、空港、商業地、工業地、住宅地もあり蒲田・大森駅があり施設も整っている。本当にバランスがとれている。蒲田西は地元とともに、商店街にも元気を出して欲しい。」

川名「最近蒲田では、個人経営店が減っているように見える。」

山崎「商店街が元気になるということは非常に難しい課題だ。駅周辺店舗の閉店が八時というのも早すぎる。」

小松「せめて十時までは開いておいて欲しい。高齢化という問題もある。商店では次の世代の方が、マンション経営をするという時代になってきた。例えば、街から本屋が消えたら街が駄目になる。住んでいる人・働く人に余裕があるから本屋に行く。このようにお店がつぶれたら街は駄目になってしまう。」

山崎「昔から、乾物屋がつぶれたら商店街は駄目になるとも言われてきた。」

都築「蒲田西地域では、肉屋が閉店になるという話を多数聞く。店頭での『買い物客と店との会話』が無くなってしまっている。」

小松「これからは酒屋が心配だね。それぞれの商店街の顔が無くなると、街の面白味が無くなってしまう。蒲田西地区も『歩いたら楽しい』地区になってもらいたいな。」

山崎「何をしたら、客はお店に買いに行こうとするかな。」

小松「やはり『手作り』だろう。」

都築「私の住む地域では、若者達が、月に二回くらいの会議を開き『商店街をどうしようか』とアイデアを出し合っている。」

小松「商店街にエネルギーが無い。商店街は街の顔だよ。我々が子どもの頃、駄菓子屋に友達同士、集まる姿があった。私たちはそこで育てられた。」

柏村「大学教育がすべて一流企業に目を向けさせるようになっているのではないか。」

山崎「親父の姿を見て、その仕事を継ごうと思う子どもは少ない。親父も子どもに同じような苦労をさせたくないと思う。だから息子の好きな道に進めばよい・・・となる。」

柳通「専門の技術・知識が電気屋等のお店に無くなってきているかな。」

小松「昔ながらの商売を今でも続けている店の前を通るたびに、『潰れないで欲しい』と思う。『人づくり』をしないといけない。」

小松恵一氏
（平成１２年３月から助役。蒲田西地区在住）

都築「蒲田西口が将来どのように変貌するか？について、本日は地元にお住まいの小松助役にいろいろとお伺いします。」

小松「考えてみると、蒲田西は地理的にも非常に恵まれているよね。都心（東京駅）に出るのに京浜東北線一本で三十分かからない。地価・マンションの値段も安い。皆なぜ蒲田西に住まないのかなと思う。」

都築「蒲田西口はどうなるのか。蒲田西のロータリーを中心として、東急が地下に潜り、大変革・大変貌を遂げるに違いない。」

小松「地理的な周りの環境や様々な状況から、蒲田西は発展しないわけがない。住んでいる街も商店も、発展してもらいたい。『そこに行けば他に売ってないものがある』というものを作っていく努力が必要だよ。」

都築「蒲田の発展のためには商店街の活性化がいかに必要か。」

小松「区商連の会合に行く時は、全身すべて大田区内で揃えたもので出席する（一同笑）。子どもの頃、銭湯に通い、皆でお湯につかった覚えがある。のんびり湯船につかるという心の余裕が大事だということを我々は忘れている。お店に行って、そこでおじちゃん・おばちゃんと話をしながら買い物をするということを、子どもたちは経験出来ない。住宅ばかりでなく、商店街があって地域が生きる。知恵を出し合い、買いたくなるような店を作って欲しい。悲しいことに、良いものを売っていた店が次々と無くなりつつある。地域の人が店を育てていかないといけない。」

柳通「お店は、その店固有の商品を売れば良い。」

都築「値段は倍でも、質の違いについての意識を商店主が持つべきだよね。」

小松「我々も考え方を替えよう。いいものはお金を出して買う気持ちを持っていきたい。」

山崎「西口に人を集めるために何かないかな。」

小松「お客さんを集めることも大事だがThis is西口という何かを作って欲しい。渋谷は「人が集まるから人が行く」「おもしろい店がたくさんある、だから買い物をする」という街だ。」

柏村副委員長

柳通副委員長

川名副委員長

山崎副委員長

柳通「例えば、大道芸をやって、その中から有名人が出たらどうなるか。蒲田西口で大道芸をやれば売れるんだ、となれば次から次へと人は集まってくる。大道芸を堂々と出来る場所を作ることは出来ないのか。」

小松「ロータリーを舞台にすればよい。」

鴨志田「横浜のランドマークタワーの辺りでもやっている。人が集まる場所になっている。」

川名「西口発展の為の理想は？」

小松「地下街が欲しいね。銀座・有楽町・東京・渋谷・新宿・川崎と、地下街のある街で発展していない街はどこにも無い。」

川名「現状を残し、活かしながら発展させる手法で、イタリアの中小企業に元気がある。蒲田西口では、どのように考えたら良いのでしょう。」

小松「大田区の工業は間違いなく息を吹き返すと思う。今までのやり方を大きく変える努力を自らしているからね。大田の工業は日本でトップクラス。大事なのは技術を持っていることだよ。」

柳通「商店は、人と人との触れ合いで商売をしているという事を忘れてはならない。顧客の要望に応えていこうとする姿勢が大切かな。」

小松「商店に我々が育てられたのだから、これからは我々が商店・商店街を育てる番だ。地域は地域で、育ち、育てていかなければならない。蒲西が変わるためには、来る人が『そこで得るもの』が無いとだめだよね。身近な場所では、川崎は地下街の整備やチネチッタに見られるように、大きく変わってきている。そういうものに大田区は学ぶべきだね。」

柏村「蓮沼から矢口にかけての辺りに魅力のある施設が何か出来ないかなあ。」

都築「中心市街地活性化も話が出ている。」

小松「蒲田に宝塚歌劇場はどうだろうか。」（一同笑）

都築「今回の創刊号には、蒲西の将来像を書きたかった。タイトルとして『蒲西は○○』というものがあればお聞きしたい。」

小松「『輝け蒲田西』はどうでしょうか。」

平成十三年七月二日

次号特集　女塚神社

蒲田西特別出張所管内 自治会・町会区域図

① 西蒲田一丁目町会
② 西蒲田二・三丁目自治会
③ 西蒲田四丁目町会
④ 西蒲田女塚町会
⑤ 西蒲田六丁目自治会
⑥ 蒲田西口町会
⑦ 西蒲田七丁目御園町会
⑧ 西蒲田八丁目町会
⑨ 御園自治会
⑩ 新蒲田一丁目自治会
⑪ 東矢口一丁目町会
⑫ 小林自治会
⑬ 安方北町会
⑭ 安方南町会
⑮ 多摩川二丁目町会
⑯ 道塚自治会
⑰ トミン多摩川二丁目自治会

蒲田西特別出張所管内

人口	男	29,587人
	女	27,280人
	計	58,867人
世帯		28,463世帯

平成13年7月1日現在

ドミソラソラ　錨を上げて

かまにし17編集委員長
都築　保二

本年六月四日、各自治会町会より選出された編集委員により、第一回の編集委員会が開かれ、かまにし17丸は、まず順調に帆をあげることが出来ました。舵取りを任されました私も素人なら、委員全員が、初めての経験ということで、戸惑いや不安の中での出帆でした。しかし、第二回編集委員会で、すでに各委員の方々の真摯な取り組み、その情熱に圧倒され、ヨシ、これならいけるぞという手応えを充分に感じ取ることが出来ました。

地域情報の提供はもちろんのこと、親しみやすく、読み物として面白く、かつ読みごたえのあるもの、この欲張った内容を常に維持していくよう、委員一同がんばることを決意しました。各号で特集のテーマを定め、間口はともかく、奥行きだけは深く掘り下げていきたい、この地域に関係のある歴史、人物、自然風土等、限られた紙面の中で、どこまで納得のいく記事が書けるのか、とにかく未知の世界へ挑戦することになりました。

大田区18地区連合会の中では、蒲田西地区の情報紙の発刊は遅いほうです。物事は始めが肝要の言葉どおり、創刊号から全力投球で臨む所存です。

最後になりましたが、所長をはじめとする、蒲田西特別出張所、職員の皆様の多大な協力に深く感謝申し上げます。

蒲田ウエストサイドストーリー

蒲田西特別出張所長
鴨志田　隆

「かまにし17」創刊おめでとうございます。編集委員の熱意、ユニークな想像力、ホットな議論が第一号に結びつきました。コミュニケーションの活性化は、地域の大きなテーマです。蒲田西地区の名所・歴史・人材などの記事が井戸端会議の話題となり、地域を見つめなおす機会として活用いただければ幸いです。

思わず「へぇー！」と声が出そうな、隠れた名所や埋もれた歴史エピソードをご存知の方は、是非ご一報ください。毎日歩いている駅への近道、買い物道路のそばにも、思わぬ逸話があるのではないでしょうか。「かまにし17は面白い」、そんな紙面とするためにも、皆様のご意見をお聞かせください。

情報紙に対するご意見・ご感想などを事務局までお寄せください。

事務局　蒲田西特別出張所
大田区西蒲田七-十二-七
(三七二二)四七八五

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています。